

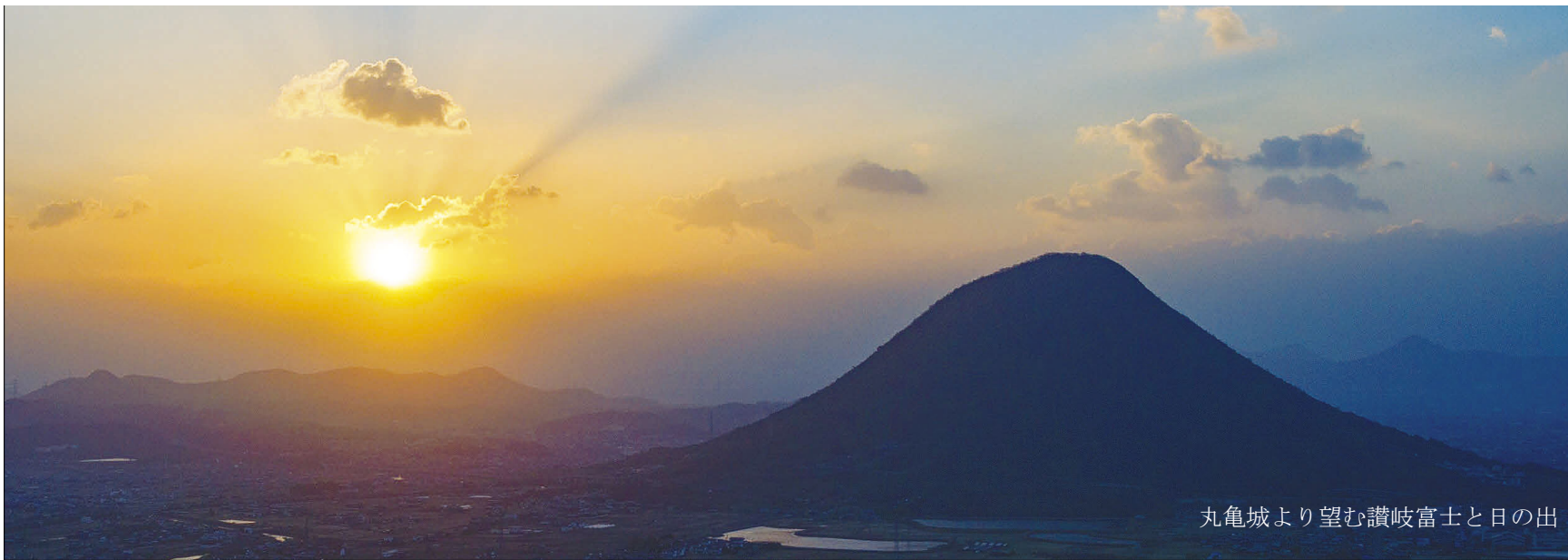


JR四国労組新聞

JRSU

2022年
1月1日
No.7(511)

四国旅客鉄道労働組合
〒760-0021 高松市西の丸町11-9
TEL (NTT) 087-851-1378
(JR) 086-2597~2598
http://jrso.jrsis.com/
発行責任者 / 大谷 清
編集責任者 / 石川 敏也



丸亀城より望む讃岐富士と日の出

年 頭 の ご 挨拶



四国旅客鉄道労働組合
執行委員長 大谷 清

明けましておめでとございます。
皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。あらためて、日頃の安全最優先の取り組みはもとより、JR四国労組運動にご理解とご参画を頂いておりますこと心から敬意を表し感謝申し上げます。

さて、昨年7月の大会において新たな執行部体制となり、『安全の取り組み』を第一義とした運動方針の実践に向け、力強く活動を展開して参りました。とりわけ、昨年は当社に対し国からの支援が継続・拡充され、その支援策を活用して、将来の経営自立に向けてJR四国グループが進むべき道筋となる「長期経営ビジョン2030」「中期経営計画2025」がスタートしました。足元では、お客様のご利用が戻りきっていないものの、感染状況もようやく改善の兆しが見えており、反転攻勢を期す1年としていかなければなりません。そして、ビジョンとして謳われている『生き生きと働ける職場づくり』の創出に向けて、JR連合が策定した『将来を見据えたJR産業のあり方と私たちの働き方』に基づいた提言も訴えながら、会社と積極的に議論を行ってまいりましたが、その実現に向けては、2022春季生活闘争をはじめとする労使協議を通じて、確実に前進させていかなければなりません。

今もコロナ禍の影響が大きくある中で、組合員の負託に応えるべく鋭意取り組んできたところですが、満足な結果というものが得にくい状況にあります。しかし、厳しい時にこそ、労働組合の意義や価値が問われる場面は多くなります。特に、不安や不満を抱えてしまいがちな状況からは「コミュニケーション活動」を一層推進していかなければなりません。その

ためにも、本年においても、支部・分会とはこれまで以上に連携しながら、対話の機会の充実を図って参りたいと考えます。若手からベテランまで、すべての組合員が入社時の感激や感動を思い起こすことができる良い会社、良い環境作りに向け、様々な社会環境変化に柔軟に対応しながら、安全の取り組みを第一義とした運動方針を力強く展開できるよう執行部一同精一杯努力して参ります。



日本鉄道労働組合連合会
会長 荻山 市朗

新年おめでとございます。
組合員の皆様の日々の業務への精励と献身的な組合活動に対し、心より感謝を申し上げます。

コロナ禍の長期化、深刻化により、JRグループは発足後最悪の経営危機に陥りました。ワクチン接種が進み、昨年10月以降、ようやくJRのご利用も回復傾向にあります。しかし、JR各社ともにコロナ前の水準には依然遠く、多額の借入金等の拡大もあり、本格復調までは長期戦を覚悟しなければなりません。さらに若年層、中堅層の離職が増加傾向にあり、危機感を高める必要があります。

こうした中、私たちは国鉄改革に並ぶ大きな転換期を迎えているといえます。5月18日にJR連合結成30周年を迎えます。本年はこの重要な節目にあたり、難局を克服してJR産業の安定回復へ確かな見通しをつけ、働く仲間の安心を取り戻すために、責任ある運動を進める決意です。

それでは、新年にあたり、重要課題3点について提起しご挨拶とします。まず、最優先課題である安全確立につ

いてです。昨年1年間、お客様に関わる重大事故はなかったものの、協力会社の社員7人が尊い命を落とされるなど、死亡労災、重大労災が後を絶ちません。JR各社が経営危機にある今こそ、労働組合のチェック機能、提言機能を強化し、「ヒューマンエラーは結果であり原因ではない」との理念に基づき、職場からの安全確立に全力をあげることにします。

次にコロナ禍への対策についてです。昨年はJR産業と働く仲間の雇用と生活を守るために、サービスマン連合、航空連合と連携して大臣をはじめ関係各所へ要請活動を繰り返し実施するなど、積極的に取り組み成果を収めてまいりました。本年も雇用対策をはじめとする支援策や、安心利用の促進、息の長い需要の底支えなどを国に求めていきます。また、離職防止のためにも、2022春季生活闘争を通じて組合員が安心感を回復できるメッセージを伝えることが重要です。JR7単組とグループ92単組がワンチームで臨み、基本給を重視した賃上げとともに、安心して働き続けられる魅力あるJR産業を築くべく、泊勤務、夜間作業など若手に敬遠される働き方の見直しにも焦点を当て、総合的な生活改善を進めることにします。

最後に、結成30周年を踏まえた中長期的な政策発信等についてです。JR連合は昨年6月に「将来を見据えたJR産業のあり方と私たちの働き方」の提言を策定しました。ポストコロナ時代にJR産業が持続的に成長して社会を支える役割を果たし続けるためには、大胆な変革が求められると考えます。秋に記念行事を開催し、JRの責任産別として未来志向の政策提言を発信する予定です。そして、JR産業に働くすべての仲間のJR連合への総結集、さらにJRグループの結束の強化、労使の信頼関係の充実を訴えます。

職場不安が広がる危機にこそ、労働組合の役割が重要となります。組合員に寄り添いコミュニケーションを強化しなければなりません。組合員の皆様のJR連合の活動への積極的な参加と協力をお願いし、新年にあたってのご挨拶といたします。



執行委員
山本 鉄平



執行委員
杉本 慶太



執行委員
石川 敏也



執行委員
中野 圭司



書記長
中村 鉄平



副執行委員長
武智 義治



執行委員
島崎 隼途



執行委員
安藤 正春



執行委員
上田 耕成



執行委員
寶田 晃



執行委員
河野 憲司



執行委員
井内 貴志



特別執行委員
矢野 宏樹



特別執行委員
森安 祐貴



執行委員
河野 鎮朗



執行委員
和田 庄平



執行委員
山本 真二



執行委員
笹岡 慎平



本部書記
板倉 みゆき



本部書記
木村 真由美



会計監査
岡本 茂



会計監査
三好 幸治



会計監査
大野 裕史



特別執行委員
尾上 裕子

二〇二二年 元旦

書記一同	岡本 幸茂	三好 裕治	大野 裕史	尾上 裕子	矢野 宏樹	森安 祐貴	特別執行委員	河野 鎮朗	和田 庄平	山本 真二	笹岡 慎平	島崎 隼途	安藤 正春	上田 耕成	寶田 晃	河野 憲司	井内 貴志	山本 鉄平	杉本 慶太	石川 敏也	中野 圭司	執行委員	中村 鉄平	書記長	武智 義治	副執行委員長	大谷 清	執行委員長
------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-----	-------	--------	------	-------

本年も宜しく
お願い申し上げます

賀正

